

●学校再開

中学校における学校再開後のカリキュラム・マネジメント ポジティブに、今できることを考える

高知県高知市立城東中学校長 大谷俊彦

4月7日から発令されていた緊急事態宣言が5月25日、約7週間ぶりに全面解除となり、ようやく全ての公立学校で授業が再開されることとなった。

しかし、ステイホーム期間が長期化したことによる生活リズムの乱れ、学習意欲の喪失、学校再開後の学校生活への不安、中一ギャップに対する初期対応、高校入試に向けた学習保障、学校における感染予防対策等、多くの困難を抱えての出発となつた。

「学びの保障」 授業時数をどう確保していくか

高知市では、学校休業期間が4月13日からの設定であったため、新年度になっての授業日は、入学式・始業式を含めわずか4日だけで、26日間の授業日を失うこととなつた。

現在、高知市教育委員会からは、

夏季休業日の初めと終わりの計13日間は授業日に充てるという通知が届いているが、それでも13日間、計78時間分が不足している計算になる。

文部科学省は、「授業時数を下回ったことのみをもって、学校教育法施行規則に反するものとはされない」、入学者選抜においては

「地域における中学校等の学習状況を踏まえ、適切な範囲や内容となるよう設定」、中学1年生と2年生については特例的な対応として、「学習指導要領において指導する学年が規定されている内容を含め、次学年又は次々学年に移して教育課程を編成」といった弾力的な判断を示してくれているのだが、現

校時表の工夫

通常の6時間授業

朝読書	8:30~8:40
朝の会	8:40~8:45
1限	8:55~9:45
2限	9:55~10:45
3限	10:55~11:45
4限	11:55~12:45
昼食	13:00~13:15
昼休み	13:15~13:30
5限	13:35~14:25
6限	14:35~15:25
掃除	15:30~15:40
夕自習	15:45~15:55 (火曜日 15:45~16:05)
帰りの会	15:55~16:05 (火曜日 16:05~16:15)

7時間授業

朝の会	8:30~8:40
1限	8:45~9:35
2限	9:45~10:35
3限	10:45~11:35
4限	11:45~12:35
昼食	12:45~13:05
昼休み	13:05~13:20
5限	13:25~14:15
6限	14:25~15:15
7限	15:25~16:15
帰りの会	16:15~16:25

時点では、中学3年生の高校入試という学びのゴールを変更するという言葉は聞こえていない。これに加え、高知県の場合は、私立高校の受験日が1月下旬に設定されているため、例年、中学3年生は、この時期までに教科書を終わらせている。

学校行事等の精選も踏まえ、今後通常どおり学校活動が実施されるものとして授業時数を計算してみると、3年生が1月末までに昨年度と比較して30時間程度足りない。そこで、その不足している時数を確保するため、本校では、6月からは木曜日に限り、一日7時間授業を実施することとした。ただし、生徒の負担が過重にならないように、朝読書や掃除、夕自習は実施せず、7限目は学級活動の時間とし、学級担任がそのまま教室にいてすぐに帰りの会を実施できるよう配慮することで、7時間授業を行っても、通常より10~20分遅い16時25分には下校できるよう校時表の工夫も行った。

各教科等のカリキュラム・マネジメント 指導順序の変更と学習活動の重点化

この状況下で生徒の学びをどうやって評価し、的確に見取っていくかについては、各校悩みも多いことと察する。例えば、音楽などでは、「3密」回避の関係から、指

導順序を変更し、先に鑑賞や創作の学習を行い、歌唱や器楽の学習を後に回すなどの工夫が取り入れられているのだが、鑑賞や創作の中で「音楽表現の技能」をどう適切に評価していくかといったことについては明確な解決策が見えてこない。家庭科や体育でも、この時期実施できる内容が限定されていることから、同じ悩みを抱えている。

また、6月5日には、文部科学省から通知された「学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について」の中で、「学校の授業で扱う内容」と「学校の授業以外の場で扱う内容」が示され、授業における学習活動を重点化する案も示された。さらに、各教科書会社からは、「学習活動の重点化等に資する年間指導計画参考資料」等の参考資料も出されていることから、今後はそれらを参考にしながら、各教科のカリキュラム・マネジメントをより一層推進していきたい。

学校行事や総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメント

「3密」を全て回避しなければならないとなると、今までどおり体育祭や修学旅行を実施することは難しくなる。体育祭一つとっても、開閉会式の廃止、騎馬戦や綱引き

など密接する団体競技の廃止、保護者などの観客の削減、応援合戦など生徒が密集する活動は廃止、平日2時間くらいで実施、などの開催方法での実施が検討されている。

修学旅行も同様である。本県では、費用を安価に抑えるために、貸し切りバスを利用することが多いのだが、文部科学省の指針では、「バスなどを利用する場合、換気に十分注意し、生徒の座席の距離をとるように」と書かれており、6月3日に日本旅行業協会から出された「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく国内修学旅行の手引き（第1版）」には、「各輸送機関の座席については、乗り物内の換気機能を最大限に作動させ、全員がマスクを着用した前提で、お一人様につき1席ずつの座席確保で対応」「旅行中も朝・夕の定期的な検温」といったガイドラインが示されている。一人1席となると、今まで1台だったバスも2台必要になるし、旅行中の朝・夕の検温となると生徒数に見合った数の体温計の準備も必要になってくる。また、修学旅行では、一人1部屋などといった配慮はできないことから、複数で同室に宿泊することを考えると、「密」を完全に防ぐことなど不可能であろう。

本校では、体育祭の応援合戦や「全校合唱コンクール」など、学年

を越えて話し合い、みんなの力で新しいものを生み出していく、創りあげていくといった活動を通して、初めて生徒に「主体性」や「実行力」、「創造力」や「表現力」といった本校が掲げる「城東コンピテンシー」が育まれていくものと考えている。保護者の方や地域の方に見て、評価してもらってこそ、生徒たちの達成感や成就感、自尊感情は高まるのである。

こうしたことは、総合的な学習の時間でも同じことが言える。本校の場合、今年度から、探究的な学びとなるよう総合的な学習の時間の学習内容を全て一新し、カリキュラム開発を行い準備してきたのだが、果たしてその内容をどこまでできるのか現段階では予測できない。総合的な学習の時間の醍醐味は、何といっても、地域の方や様々な職業人などたくさんの方とつながり、関わっていくことにある。こうした活動を通して、生徒たちは学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度が育ち、自己の生き方を考えることができるようにになるのである。しかし、「新しい生活様式」の中、人と関わりがもちづらい総合学習では、生徒たちが主体的に課題探究することは難しい。

そこで本校では、「こうした状況下でもできる総合的な学習の時間の成果発表を模索しよう」と、今

年度は「仲間」「地域」をベースに学年ごとのテーマを決め、各学級の取組を映像にまとめ発表会を行うこととした。映像にまとめるといたことを経験した教員が少なく、ICT機器の操作への不安や抵抗感をもつ教員もいたが、「YouTube」全盛の中、生徒たちの力を借りながら進めていくことにした。学校に、ICT環境が整備され、各教室で「Zoom」などを使って、各クラスの発表を聞くといったことができればよいのだが、公立学校にはまだまだそれに対応できるICT環境は整備されていない。しかし、今後はこうした学習を通して、生徒たちの情報活用能力や言語能力を高めていくことが必要だと考えている。

授業における工夫

ソーシャルディスタンスを確保しながら

この状況の中で、「主体的・対話的で深い学び」「学校のソーシャルディスタンス」を実現するために授業で何ができるのか、教員は日々試行錯誤している。ここで、本校の一例を紹介する。

まずは、「黒板メッセージ」である（写真1）。朝の会や帰りの会における教員の話の時間は限られているので、少ない発話の中で、多くのことを伝えるために、「黒板メッセージ」という手法を取り入

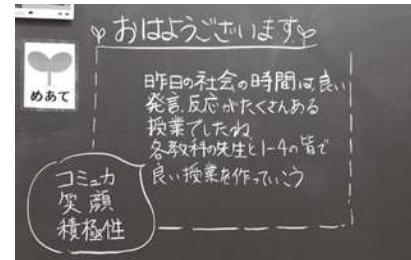


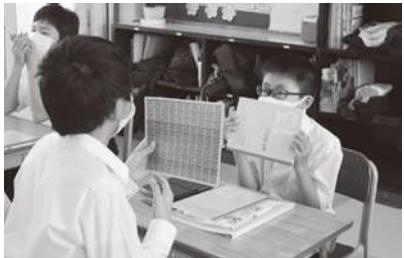
写真1 黒板メッセージ

れた。生徒たちが帰った後の放課後、学級の黒板に、今日一日を振り返り、良かったことや感動したことなどを書き、明日頑張ってほしいことなどを前向きな言葉でメッセージとして伝えることで、担任と生徒の心をつなぐ有効なツールとなっている。

次に、授業でのグループディスカッションの場の工夫である。授業において「対話的な学び」が当たり前となった今、本校では、この「対話」と「ソーシャルディスタンス」の両立を目指し、飛沫感染防止に向けた様々な取組が行われている。写真2は、外国語の授業で、自己紹介の際、マスクをした自分の口元に下敷きやノートを立てて対話するという方法である。写真3は、4人グループの机を横一直線に並べ、同じ方向を向いて話し合いを行っている様子、写真4は、4人の机を口の字型にし、真ん中に空間をとってお互いの距離を確保する工夫がなされている。

● case 2 ●

中学校における学校再開後のカリキュラム・マネジメント



旅行、文化発表会などを実施してあげたい」と、思いは同じであろう。

日々刻々と状況が変わる中、どの方法をとっても、これが正解というものがあるわけではないため、今、これから先の学校行事等について断言することは難しい。

「生徒や教職員の安全を最優先に考えるなら中止」という選択肢もあるだろう。しかし、体育祭の応援合戦や学習発表会のような自分たちで創りあげていこうとする自主的・実践的な活動を通して味

わう成就感や連帯感は、何物にも代えがたいものだ。校長としては、ぎりぎりまで実施の可能性を探つていきたいと考えている。

嘆くのではなく、こんな時だからこそポジティブに、学校として今何ができるのかを常に考えていきたい。



「嘆くばかりでなく…」

城東中学校 3年 男子

私は、新型コロナウイルス感染防止対策の臨時休校期間中は、不要不急の外出を控え、家でできることをしていました。例えば、インターネットで調べ学習をしたり、DIYをしたりと普段できないことに取り組みました。学校とはまた違う知識を蓄えられたと思っています。

しかし休校が延びるにつれて、徐々に心配が増えてきました。修学旅行や体育祭、合唱コンクールなど学校行事がどうなるのかということです。現在、県内の感染者は74人で、少ないとは言えない数です。3年生にとって、部活動や学校行事は今年が最後。「中止がどんどん増えていくのでは」という不安と、世界みんなで収束させようと頑張っているのだから「受け入れなければ」という気持ちのはざまで、私の心は揺れています。

でも、嘆くばかりでは何も始まりません。普段できないことに挑戦したり、受験生は復習に時間を費やしたりと、今、できることはたくさんあります。後ろ向きにならず、ポジティブな心で、挑戦してみたいと思っています。

一日も早く、今までの学校生活が戻ることを心から願います。

ポジティブに、今できることを考える 「嘆くばかりでは何も始まらない!」

右の文章は、中学3年生の生徒会の男子生徒が、地元の高知新聞に、「中学校特派員だより」として投稿し掲載されたもので、見事に我々教職員や生徒の思いを代弁してくれている。教職員、保護者、地域の方々は、「最終学年の3年生には、中学校最後の体育祭や修学